

【046】 基本的人権に関する次の文中のア～オにはそれぞれ異なる語句が入るが、正しい語句を挙げているのはどれか。

自由権は(ア)ともいわれ、権力による違法・不当な介入や干渉を排除し、各人の自由を保障する権利で(イ)も含まれる。

参政権は(ウ)ともいわれ、国民が政治過程に参加することを保障する権利で、(エ)も含まれる。

社会権は(オ)ともいわれ、すべての国民が人間らしい生活を営むことを国家に対して要求する権利のことをいう。

- 1 ア——国家による自由
- 2 イ——平等権
- 3 ウ——国家への自由
- 4 エ——労働基本権
- 5 オ——国家からの自由

【047】 日本国憲法で保障されている自由権に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 学問の自由とは、学問研究の自由およびそれに伴う施設の利用を保障するものであって、研究発表の自由はこれに含まれない。
- 2 信教の自由とは、人の内面における信仰の自由を保障するもので、宗教結社等の対外活動の自由はこれに含まれない。
- 3 居住・移転の自由は、日本国民に限らず外国人にも広く保障されているが、自由な出入国の権利は外国人には認められていない。
- 4 集会の自由は、民主主義の根幹として広く保障されており、集会に対して公共の建物や土地の使用に制限を加えることは認められない。
- 5 良心の自由は、最も制限の少ない自由権として保障されているので、被告に謝罪広告を命ずる判決を行うことはできない。

【048】 我が国の憲法で定められている法の下での平等に関する次の記述のうち、妥当なのはどれか。

- 1 法の下での平等の対象は自然人と解されており、憲法においては外国人に対して日本国民と異なる取扱いをすることは禁止されている。
- 2 栄典制度は、国家への忠誠度に応じて人を評価するものであるから、平等原則と矛盾するとして憲法はこれを禁止している。
- 3 同一の対象について条例で規制する場合、各地方公共団体によって異なる取扱いがあっても、憲法が条例制定権を認めている以上、憲法違反とはいえない。
- 4 選挙人の投票の価値は平等であることから、選挙区間における議員一人当たりの選挙人数の格差が最大一対二に達した場合は違憲であり、選挙を無効とするのが最高裁判所の判例である。
- 5 労働法における女性の保護規定は、男女平等に反すると解されており、産前産後の就業制限も含めすべての保護規定は撤廃される。

【046】 3

- ア：国家からの自由
- イ：平等権は自由権に含まれない
- エ：労働基本権は社会権である
- オ：国家による自由

【047】 3

- 1 含まれる
- 2 含まれる
- 4 認められている
- 5 できる

【048】 3

- 1 禁止されていない
- 2 禁止していない
- 4 選挙自体は無効にならない
- 5 産前産後の就業制限は反しない